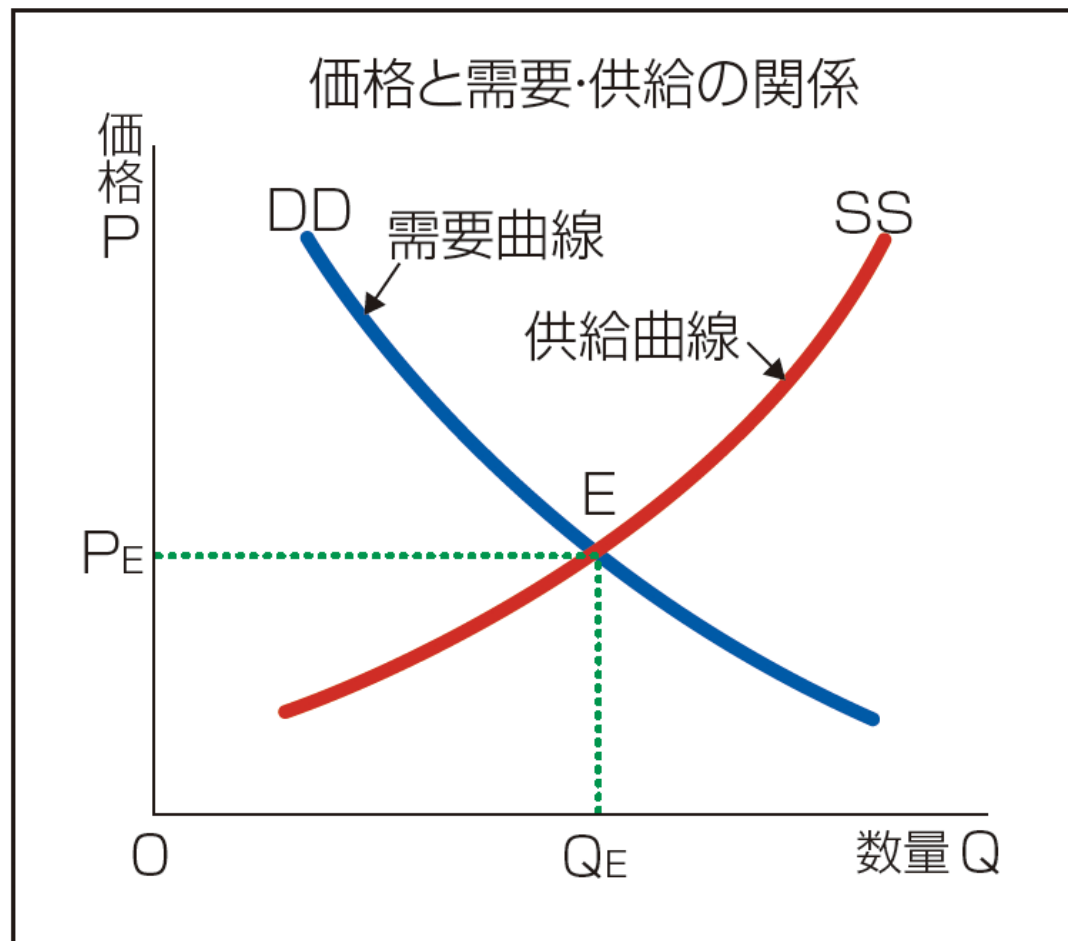


市場経済における価格は需要と供給で決まる

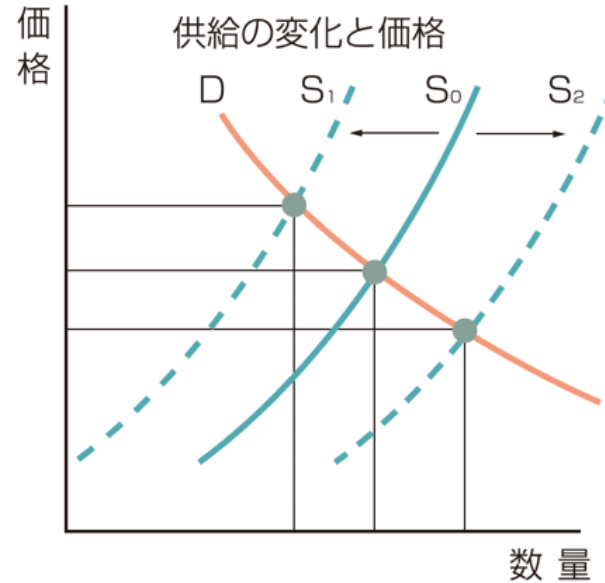
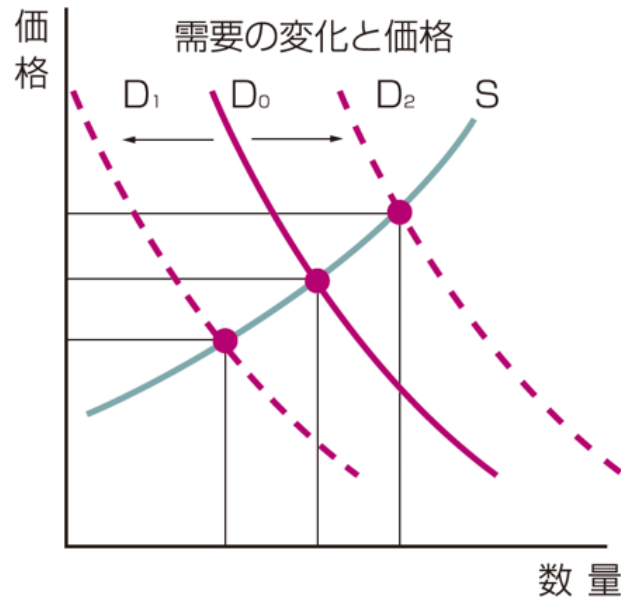
価格が下がると需要量(買われる量)は増えるので、
需要曲線は右下がりの曲線になる。

価格が上がると供給量(生産・販売される量)は増えるので、
供給曲線は右上がりの曲線になる。



この図の商品の価格は P_E 、供給量は Q_E となる。
E点を均衡点という。

市場機構により資源(財・サービス)が配分される需要曲線と供給曲線の移動(シフト)



もし価格が均衡価格より低(安価)ければ、品不足(超過需要)となって価格は上がる。

- : D_1 の需要曲線が D_0 に向かって移動する。
- : S_2 の需要曲線が S_0 に向かって移動する。

逆に価格が均衡価格より高(高価)ければ売れ残り(超過供給)となって価格は下がる。

- : D_2 の需要曲線が D_0 に向かって移動する。
- : S_1 の需要曲線が S_0 に向かって移動する。

このように需要と供給の関係で価格が変化して、調節されることを価格の自動調節機能という。こうして品不足や売れ残りがなくなり、資源が無駄なく配分された状態を**資源の最適配分**という。

何を、どれだけ、どのような方法で、誰のために生産するかということについて、市場における私たちの自発的な取引によって解決しようというのが市場経済である。ここでは、価格がシグナル(信号)となって、私たちの需要に応じた生産が行われ、限られた資源が必要なものの生産に投入され、無駄なく、効率が良い生産が行われる。これが「価格の自動調整機能」であり「市場メカニズム」とも呼ばれている。